

## 第6回信州首都圏総合活動拠点整備推進会議

平成26年7月9日（水）13:30～

県庁第三応接室

### 議題（1）信州首都圏総合活動拠点整備事業について

#### （中村委員）

議題についての説明も、県と協会からそれぞれあったが、まさに縦割りであり、県と協会、1階と2階がしっかりコラボできるようなディレクターの役割は重要。誰がやるのかをはっきりしておくべき。

銀座だから人が集まるというのはまちがい。大学の分校や旅行会社の窓口、信濃毎日新聞の支局でもよいので、そういった機能を常設して、常に人が集まるような仕組みをつくり、催事の間を埋めるような工夫が必要。

オープンが延期されたが、今のうちに銀座で、長野県の拠点ができるということをしておくべき。

2ヶ月前にオープンした物産館が、今集客に大変苦労している。最初の1ヶ月くらいは地元からも大勢の客が来たが、気をつけなければいけないのが、人が集まらなくなると市町村などが協力してくれなくなってしまうこと。

#### （玉村委員）

中村委員からも組織的な懸念が示されたが、現場で誰がどれだけの権限を持って物事を決めることができるのか、どういった体制になっているのかといったことがわからない。東京は現地機関だから何も決められないといったことではまずいと思う。

#### （野池観光部長）

県と協会が分担をして運営していくことになるが、企画運営会議というものを設置し、日々の状況の把握、情報の共有、反省点を明日へ活かすといった会議を日常的に開催することにより、意思決定を図っていくということを考えている。

#### （熊谷東京観光情報センター所長）

ここは他の店と何が違うかといったことを考えると、舞台を持った店舗だと思っている。そうした意味において、2階の催事と1階の物販が常に連動していくことが重要である。当面、私が責任者としてやっていくことになれば、物販の独自性は確保しつつ、

必ず2階と連動を持たせていくといったコンセプトのもとで運営していくものと考えている。

**(鎌田委員)**

オープン以降、現場でジャッジしていく人が、今から予算等においても権限を持ちながら、責任を負って商品の選定・レイアウトに絡んでいくべきだと思う。そうすれば自分のこととして、責任をもった関わりがいやが応にも生じる。

お店はお客様に対して責任を負う場であるので、そういった観点から現場での責任の所在は明確にしておくべき。

**(野原委員)**

行政が流通を扱うのは困難だと思う。ゆくゆくは外から店長を連れてきて、全権を委任するということもあり得るのかもしれない。

現時点では、県と協会という2本建てになってはいるが、こういった施設では仕方がないこと。我々も問題は承知しているが、ただ、どこにどういった問題があるのかはやってみなければわからないということもあり、どう変えていけばいいかは検討の余地があると思っている。

**(小山委員)**

何度かお話を聞く中でまず思ったことが、誰の思いどおりにもならないものができてしまう懸念があるということ。誰も責任がとれる判断ができていない。精一杯やりましたと言えるところまでやらせてもらえる人がいるのかどうか分からない。

もう一つのキーは、集客エンジンが見当たらないということ。現状では、長野県が行うということに頼って集客せざるを得ない状況にある。長野県の商品にいかに魅力があって、それをわざわざ銀座まで買いに来ていただけるところまで持っていけるか不透明な状況にある。私は飲食を中心に事業を展開しているので、レストランの集客力がある程度信じているし、食のあるところに人が集まるということを実感している。そういったことから、1階のカウンターをもう少し飲食の機能を強くしてもいいのではないかと考えていたが、物販を中心にやっていくべきとの声が多いと聞いているので、どうやって集客していくかはよく考えなければいけないと思っている。

**(鎌田委員)**

私どもも全く同じ状況にあった。県には仕入れの権限がなければ、売り上げを上げる権限もない。それが観光協会にはあるということなので、二本立ての組織になってしまう。なので責任者は県側というのは難しいかもしれない。私の場合、設置の意思決定はJR本社でやっていたが、仕入れの権限は全てグループ会社に与えた。これまでの組織

を解体して、対お客様に対して誰が責任をとるのかといったことを見える化していった方がよいと思う。

そういったことを考えると、観光協会の方で、ある程度の人材を確保した中でやっていくことがいいのではないかと思う。

**(野原委員)**

今回の事業の場合、拠点の設置は県の意思によるもの。協会はその一部をいわば委託されてハンドリングをしているということになる。

**(小山委員)**

商品を売っていくといことであれば、いかに魅力のある商品を集められるか、来ていただいた方に対して、しっかりと良いイメージを伝えて帰っていただくことができる商品選定が重要になるが、スタッフにとってもいいものを売っているという自覚が持てるものを取り扱っていくことも、選定と同じくらい重要だと思っている。そういったことを通じてファンが増えていくもの。

**(熊谷東京観光情報センター所長)**

行政的な考え方もかもしれないが、目的や成果といったものに何を求めているのかの共通認識が明確でないと、責任をとる対象も抽象論のままで終わってしまう。単に売上だけを目指していくのか、それとも数値化できるかわからないが、長野県のファンがどれだけ増えたのかといったことに対して責任を負っていくのか。我々が最初に何を目的にしたのかということを持って責任論を議論すべきではないかと思う。

**(中村委員)**

銀座にある物産館の中でも成功しているのが、奈良のまほろば館。要素は新鮮な大和野菜が豊富にあり、食べ方までを提案してくれる。一方、ある物産館はお酒の品揃えを充実させたが、全く売れない。銀座の人はその県にお酒を求めてはいなかったということ。

銀座で求められている長野は何か、今からでも遅くないのでしっかり見極めることが重要。品揃えでは百貨店にかなわない。

**(玉村委員)**

野菜の流通の話はその後どうなっているか。

**(熊谷東京観光情報センター所長)**

定期的に販売することは難しいが、テーマ性を持たせた中で取り扱っていくことを、

協会の方で検討している。

**(玉村委員)**

せっかく3階に小山さんが入るのだから、1、2、4階との連携に大きな期待をしているが、県との連携について、今のところどんな話をされているのか。

**(小山委員)**

商品構成が決まってきてからの話だと思うが、例えば1階で取り扱う生鮮品を3階で仕入れて提供するということが可能性としてあり得ることだと思う。

私の店舗はこれまでも長野の商材に頼って店づくりをしてきているので、同じように店づくりをしていきたいと思っている。

都内の人々が求めているものは地方の空気感だと思っている。地方で育んだ店舗を都内で展開し、地方の空気感を感じてもらうことを心がけているので、そのようなことは積極的に取り組んでいきたい。

具体的には、四季に応じた長野の食材を取り込んだ炊き込みごはんをメインに用意していくことを考えている。

**(鎌田委員)**

物流の導線はできているのか。かなりの密集地であるのでなかなか思いどおりにはいかないと思う。

1,000を超える品目を扱うとなると小規模な事業者も多くなり、物流はかなり複雑になることが予想される。必要な品物が来ない、来なくていいものが来るといったことが当然のように起こる。

物流の専門家を入れてタイムスケジュールを組むべきだと思う。

**(小野事務局長)**

1品目毎に物流が動くということがないよう、ある程度定期的にまとめたコンパクトな物流となるよう検討している。

また、買い取りかどうかといったことについては、農政部とも相談させていただき、足の長いものについては消化仕入れを基本に考えていく。生鮮品については、数量を極力絞って買い取るといったことを検討している。

**(野原委員)**

ここの弱点はバックヤードがないこと。であるから、近くに物流拠点を設けてそこから小口で品物を補充させるとかの手間がかかってしまう。あとは宅急便の小口で扱うしかない。そのあたりの検討は進めているが、まだ結論が出ていない。

**(鎌田委員)**

客がいない時に、一見して混んでいるような見せ方として、量り売りなど、客のオーダーをカスタマイズできる仕掛けがあった方がいいと思う。

また、地産品はちょっとしたパーソナルギフトに向いていると思うが、現在のレイアウトを見ると、ギフトには対応できそうにもない。包材は場所をとるので、2階などをうまく使って工夫して欲しい。

そういった意味で、地産品には大きな可能性があると思っていて、例えば、みそ、醤油を一度売ったら、その家の自家需要を全て取り込むような意気込みでやっていくべき。

**(羽田委員)**

観光情報提供コーナーがあるが、ここでは観光案内だけでなく、旅行商品なども売ってしまったらどうなのか。

**(小野事務局長)**

協会のHPでは旅行の予約を入れることができるので、そういったことも考えている。ただ、その場でチケット等が発券できないといった課題もある。

**(山口委員)**

商品選定についてアドバイスを求められたりしているが、ラインアップを見ると、紙だけで選んでしまっているように思う。もう少し目利きの方を入れて選ぶべきではないかという気がする。特に伝統工芸品などは腐るものではないので、ガラスケースの中に長い間入れられたままのものをよく見るが、非常にもったいない。松本クラフトフェアにあれだけ人が集まることを考えると、売り方の工夫次第で全然違うと思う。

**(中村委員)**

こういった場所なので、試飲・試食は宣伝費だと思ってたくさんやる。多くの人に来てもらうことを考える。

**議題（2）信州首都圏総合活動拠点に係るロゴについて**

有識者委員について、支持するロゴは以下のとおり。

A案 中村委員、鎌田委員、玉村委員、山口委員（どちらかといえば）

B案 野原委員、小山委員